

事務事業名	消火栓施設整備事業		所属部局	総務部		単位番号		3115								
			所属課室	危機管理室		課長名		高野 晃史								
	☐ 実施計画事業		所属担当	防災担当		担当者名		内田 淳								
基本政策	基本計画体系	情報と連携の都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政策		安全な環境づくり	事業区分	01	一般	0	9	0	1	0	3	0	3	0	0	5
施策		防災体制の充実		☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金												
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠													
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)												
	各地区からの要望書の提出を受けて、候補地の調査を行い、決定後、消火栓の新設を行う。			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)												
				工事負担金 2,874												
				計 2,874												

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動
22年度活動実績 :新規消火栓設置 3基
23年度活動予定 :新規消火栓設置 3基
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等
市民、建物火災
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)
火災発生時にすみやかに消火作業、延焼防止ができれば消火栓を整備し、人や建物への被害を最小限に抑える。
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)
市民の安全が守られる。

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A: 新規消火栓	基
I:	
U:	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A: 市人口	人
I: 建物火災全焼件数	件
U:	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A: 建物火災全焼件数	件
I: 建物火災焼損面積	m
U: 消火栓設置数	基
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A: 火災被害者数	人
I:	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	4,699	2,874	3,600	3,600	3,600	3,600	
	事業費計 (A)		千円	4,699	2,874	3,600	3,600	3,600	3,600	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	200	200	200	200	200	200		
		人件費計 (B)	千円	892	892	792	792	792	792		
		(A) + (B)		千円	5,591	3,766	4,392	4,392	4,392	4,392	0
活動指標		アイウ	基	5.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0		
		アイウ									
対象指標		アイウ	人件	72,869.0 14.0	73,014.0 12.0	72,854.0 10.0	73,000.0 10.0	73,000.0 10.0	73,000.0 10.0		
		アイウ									
成果指標		アイウ	件 m 基	14.0 937.0 1,596.0	12.0 971.0 1,599.0	10.0 950.0 1,602.0	10.0 950.0 1,605.0	10.0 900.0 1,608.0	10.0 900.0 1,611.0		
		アイウ									
上位成果指標		アイウ	人	5.0	6.0	5.0	5.0	5.0	5.0		
		アイウ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併前の旧町村時代から毎年、予算の範囲内で整備されてきている。
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	合併後8年間大きな変化はない。住宅の点在化傾向があり、今後も必要である。
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	住宅地の拡大に伴い、消火栓の届かない地域がまだまだたくさんあり、住民からの新規要望がかなりある。

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている 【内容！】 ☒ 取り組みしていない 【理由！】
これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	予算の範囲内でなんとか対応している状況であり、市内の消火栓の状況を見ると、まだまだ計画的に整備していく必要がある。
H 22年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	消火栓施設整備事業	所属部	総務部	所属課	危機管理室
-------	-----------	-----	-----	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 適切である 【理由↓】	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある 【理由↓】 ☒ 向上余地がない 【理由↓】	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☐ 統合・連携ができない 【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 公平・公正である 【理由↓】	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	消火栓の設置基準及び必要か所数の把握を明確にしておく。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性、 、 の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性、 、 の結果) ☐ 成果向上(有効性 の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性、 の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について なし		(5) 事務事業優先度評価結果																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 なし		成果優先度評価結果	対象外																					
		コスト削減優先度評価結果	対象外																					